

フィリピン宇宙庁（フィリピン共和国）と連携協定を締結

～宇宙開発利用及び科学技術分野への貢献に期待～

【概要】

2022年3月4日に、フィリピン共和国の宇宙機関であるフィリピン宇宙庁（PhilSA: Philippine Space Agency）と北海道大学との間で大学として世界で初めて連携協定を締結しました。

本学がフィリピン共和国と共同で、同国初の人工衛星である第1号衛星「DIWATA-1」と第2号衛星「DIWATA-2」を開発・運用した実績が、国際貢献上の成果として高く評価されています。これらの衛星に搭載された観測機器の開発にあたっては、本学の大学院理学研究院の光学機器開発経験と大学院工学研究院の熱構造設計技術の融合が大きな役目を果たしています。このような部局を超えた連携により、世界最高性能のスペクトル撮像装置を用いた観測手法の確立や、台風などの災害をもたらす気象現象の監視、衛星搭載観測機器の技術開発などが行われました。

こうした本学の貢献が契機となり、2019年8月にフィリピン宇宙庁が設置されました。今後同庁との宇宙開発利用及び科学技術分野全般における更なる協力の強化と発展を推し進め、宇宙人材の育成を含めた相互協力を行うため、大学院理学研究院及び大学院工学研究院が中心となり包括的な連携協定が締結されたものです。

【協定締結に至った経緯】

本学はフィリピン共和国と、同国が開発に携わった第1号衛星「DIWATA-1」及び、第2号機衛星「DIWATA-2」を共同で開発・運用した実績があり、2号機は現在も共同運用を継続しています（プログラム名：Development of Philippines Scientific Earth Observation Micro Satellite(PHL-MICROSAT)）。

こうした成果を受けて、2019年8月にフィリピン大統領府の下にフィリピン宇宙庁（PhilSA）が設置され、初代長官（閣僚）に本 PHL-Microsat プログラムのフィリピン側代表のジョエル・ジョゼフ・マルシアーノ・ジュニア教授が就任されました（本学のアンバサダーにも就任されています。）。

同国及び PhilSA との、今後の宇宙分野及び科学技術分野における協力の更なる強化と発展、並びに宇宙人材の育成に向けて相互に協力することの重要性を鑑み、ここにフィリピン宇宙庁との連携協定が締結されました。

【連携の内容】

<交流対象分野>

- 1) 衛星バスの開発
- 2) 宇宙環境を利用した地球観測、宇宙探査及び宇宙実験を含む科学的な観測機器の開発
- 3) 推進システムの開発
- 4) 地上局を利用した衛星運用
- 5) 衛星データの交換、アプリケーション製品の開発と利用
- 6) 衛星データ検証のための地上計測の実施

7) 宇宙法, 政策, 国際協力の促進

8) 両参加者によって確認される他分野の促進

<交流活動>

1) 客員研究員や学生を含む専門家や研究者の交流

2) 科学的, 技術的な情報交換を含む共同研究開発

3) 会議の共同開催, セミナー, シンポジウム, 研修, ワークショップ, 展示会, その他別添の覚書に関するイベントの開催

4) その他, 短期コース, 技能実習, 両参加者によって識別される技術的な実証など

【協定の有効期限】

2022年3月4日から5年間

お問い合わせ先

北海道大学大学院理学研究院 教授 高橋幸弘 (たかはしゆきひろ)

T E L 011-706-9244 F A X 011-706-9244 メール yukihiro@sci.hokudai.ac.jp

U R L <https://www.cris.hokudai.ac.jp/cris/smc/>

配信元

北海道大学社会共創部広報課 (〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目)

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール jp-press@general.hokudai.ac.jp